

JISA 東日本地区会 開催報告

令和 8 年 2 月 24 日（火）、株式会社 HBA（北海道札幌市）において、令和 7 年度東日本地区会が開催された。参加者は関係者含め 72 名だった。



東日本地区会
代表幹事
白幡一雄氏

冒頭、東日本地区会 代表幹事（(株) HBA 代表取締役執行役員社長）白幡一雄氏が開会挨拶を行い「冬季観光やウィンタースポーツで北海道が盛り上がる中、地元 IT 企業との交流を深め、地域産業の活性化に繋げていきたい」と述べた。また、JISA 副会長（TIS(株) 取締役会長）桑野徹氏が「生成 AI を中心とした急速な技術進化があらゆる産業に大きな影響を与え、業界は変革期にある。JISA では価値創造・価値提供型のビジネスモデルについて



JISA 副会長
桑野徹氏

活発に議論している。地区会をはじめとする会員同士の積極的な情報交換と取組を進めていきたい」と挨拶をした。また、経済産業省 北海道経済産業局 地域経済部 部長 渡邊泰弘氏が「IT 企業のデータセンターやラピダスの半導体研究製造拠点の建設など北海道の将来を左右するプロジェクトが進展している。一方で人手不足は重要課題。北海道では「デジタル人材育成協議会」を設置し、AI の利活用や人材育成に取り組んでいる。地域経済の発展に皆様のご協力をお願いしたい」と挨拶をした。

続いて、「東北地区の情勢」について JISA 東日本地区会 東北地区理事 平山成治氏より、「北海道地区の情勢」について JISA 東日本地区会 北海道地区理事（(株)HBA 代表取締役執行役員社長）白幡一雄氏よりそれぞれ報告があり、地域経済の概況及び IT 産業の動向について直近の統計とニュース等が紹介され、質疑応答が行われた。その後、JISA 会長（SCSK(株)参与シニアフェロー）福永哲弥氏が閉会挨拶を行い「AI の進展により従来の労働集約型ビジネスモデルの限界が指摘される中、当業界は人材を真に活かし、社会の総生産力向上に貢献する新たな価値創出へ踏み出す必要がある。JISA としても地域活動と連携しながら業界の将来を共に考えていきたい」と述べた。

続いて行われた講演会は、一般社団法人北海道 IT 推進協会（HICTA）との共

催により2部構成で行われた。第1部では、経済産業省 北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課 課長補佐 飯田稔氏より「北海道経済産業局 製造・情報産業課の取組と支援施策について」と題する講演があり、道内企業の人手不足や投資停滞の解消を支援する具体的取組として「半導体ラピダス進出を契機とした道内への発注の引き込み、自動車のSDV (Software Defined Vehicle) 化等によるIT企業の新たな参入の後押しをしたい。そのためにも、デジタル人材育成のポータルサイト「マナビDX」、DX認定制度やデジタル化・AI導入補助金などの活用を促進し、さらにサイバーセキュリティの実践力向上を目的としたHardening Projectや生成AIの基盤モデル開発を支援する「GENIAC」についても推進している」と紹介があった。



経済産業省
北海道経済産業局
飯田 稔氏



堅展実業(株)
厚岸蒸溜所
チーフブレンダー
立崎勝幸氏

続く第2部では、堅展実業(株) 取締役 ウイスキー事業本部長 立崎勝幸氏より「一本の線の経営」と題する講演があり、同社の取組について「国内蒸溜所急増による品質のばらつきが課題となる中、当社は原料から製造までの全工程を数値化し、「再現性」を軸に、製造・品質管理を徹底した「一本の線の経営」を実現。一本の線の経営により新入社員でも一か月で基本工程を再現可能とした。更には経験やデータに基づき毎年改良し、コンテストやふるさと納税への出品などを通じブランド価値向上を目指している。」と紹介。「ブランドを生むためには、データの活用と並び、「美味しいウイスキーを届けたい」という思いや覚悟を経営陣が持ち続けることが重要」と締めくくった。

講演後は、京王プラザホテル札幌にて交流懇親会が行われ、北海道IT推進協会 会長 入澤拓也氏が乾杯の挨拶を行い、歓談へと移った。途中、JISA 会長 福永哲弥氏、JISA 副会長 桑野徹氏、JISA 副会長・専務理事 高橋 淳氏が挨拶を行い、最後に、JISA 副会長・専務理事 高橋 淳氏が中締め挨拶を行い、盛会のうちに閉会した。



(交流懇親会)

(事務局)